

# 第13回研究大会・総会

## プログラム

日時：2008年12月6日（土）

会場：早稲田大学戸山キャンパス

36号館6階681教室

8:30- 受付開始

### 研究大会（9:00-16:50）

9:00-9:05 開会の言葉 会長 大貫良夫

#### ー調査速報の部(9:05-11:45)ー

- (1) 9:05-9:25 「エル・サルバドル共和国レンパ川下流域発掘調査速報」  
市川 彰（名古屋大学大学院博士前期課程）、  
伊藤伸幸（名古屋大学）、  
柴田潮音（エルサルバドル文化芸術審議会考古課）
- (2) 9:25-9:45 「エル・サルバドルの子キリン貝塚調査について」  
伊藤伸幸（名古屋大学）
- (3) 9:45-10:05 「コパン考古学プロジェクト調査速報2007-2008」  
寺崎秀一郎（早稲田大学）  
中村誠一（早稲田大学比較考古学研究所/サイバー大学）、  
鈴木真太郎（コパン考古学プロジェクト）
- (4) 10:05-10:25 「インガタンボ遺跡発掘資料の分析」  
山本 睦（総合研究大学院大学博士課程/  
日本学術振興会特別研究員DC2）
- (5) 10:25-10:45 「ペルー北部中央海岸セロ・ブランコ及び  
ワカ・バルティエーダ遺跡出土の自然遺物の分析」  
芝田幸一郎（法政大学）
- (6) 10:45-11:05 「ペルー、パコバンバ遺跡から出土した人骨の形態人類学的研究」  
長岡朋人（聖マリアンナ医科大学）
- (7) 11:05-11:25 「パコバンバ遺跡の景観構造と変容」  
坂井正人（山形大学）
- (8) 11:25-11:45 「ペルー北部カハマルカ地方、エル・バラシオ遺跡の発掘調査」  
渡部森哉（南山大学）

#### ーポスターセッション（11:45-12:00）ー

- (9) 11:45-12:00 「北部ペルー、アマカス平原における遺跡と地形の  
三次元復元図の作成およびGISによる分析」  
伊藤裕子（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター）、  
鶴見英成（埼玉大学）、  
金子勇太（国際航業株式会社）

#### ー昼休憩（12:00-13:00）ー

#### ー研究発表の部(13:00-16:45)ー

- (10) 13:00-13:30 「後古典期ナワ人にとっての境界と儀礼」  
井上幸孝（専修大学）
- (11) 13:30-14:00 「マヤ文明の石器研究（1986-2008）」  
青山和夫（茨城大学）
- (12) 14:00-14:30 「エクアドル南部におけるインカのミティマ：  
ムユプンゴ領域の遺物と民族誌」  
大平秀一（東海大学）
- ー休憩（14:30-14:45）ー
- (13) 14:45-15:15 「ワルバとナスカ：中央アンデス前期中間期末期の  
山地民と海岸民の関係をめぐって」  
土井正樹（京都文教大学）
- (14) 15:15-15:45 「移転・拡張・放棄：  
ペルー北部、アマカス複合遺跡における神殿更新活動の展開」  
鶴見英成（埼玉大学）
- (15) 15:45-16:15 「アンデス先史文化におけるサル」  
鶴澤和宏（東亜大学）
- (16) 16:15-16:45 「アンデス形成期における神殿建築の変容過程  
ークントウル・ワシ神殿の3Dモデル化による分析からー」  
井口欣也（埼玉大学）

16:45-16:50 閉会の言葉 大会実行委員長 寺崎秀一郎

### 総会（17:00-18:00）